NIHONBASHI RIVER WALK

＜News Letter＞

さあ、街から未来をかえよう
三井不動産
MITSUI FUDOSAN

2026年11月9日

報道関係者各位

一般社団法人日本橋リバーウォークエリアマネジメント
三井不動産株式会社

NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM 第六弾

「日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業」工事用仮囲いを活用したアート作品の展示を開始

日本橋リバーウォークの回遊と賑わいを創出するアート作品を掲出

本ニュースレターのポイント

・日本橋リバーウォーク（※1）の回遊や賑わいを創出する工事用仮囲い装飾プロジェクト「NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM」の第六弾として、中央区の日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業の工事用仮囲いに、アート作品を掲出。

・日本橋の地域商店から着想を得て作成したモチーフをもとに、街が持つ伝統と、未来へと進化し続ける姿を表現したビジュアルアートを掲出。日本橋の未来への期待感を高める装飾を実施。

※1：日本橋リバーウォークとは、親水空間と川沿い歩行者ネットワークを中心に、5つの再開発区域とその周辺一帯を指すエリア名称です。





「日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業」の工事用仮囲い装飾 (Photo by Kenji Agata)

一般社団法人日本橋リバーウォークエリアマネジメント(以下「日本橋リバーウォークエリアマネジメント」）は、日本橋リバーウォーク内の回遊や賑わいを創出する工事用仮囲い（以下「仮囲い」）装飾プロジェクト「NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM」にて、日本橋リバーウォークエリアマネジメントの事務局である三井不動産株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：植田俊、以下「三井不動産」）と連携し、第六弾となる作品掲出を行います。

本企画では、日本橋リバーウォークで進行する大規模再開発事業の仮囲いを活用してアート作品を掲出。各地区の仮囲い装飾を巡りながら、エリアの魅力を知り、街歩きをお楽しみいただけます。第六弾は「日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業」の仮囲いでの実施となります。

この度の仮囲いの活用を通して大規模工事期間中における街の賑わいを創出することで、魅力ある日本橋の街づくりをより一層推進してまいります。



5つの再開発エリア
（NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM実施予定地区） ▶

日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業　解体工事用仮囲い実施概要

作品名　：日本橋通り絵図

掲出場所：日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業
解体工事用仮囲い
東京都中央区日本橋室町一丁目5番の一部、6番（地番）

掲出期間：2026年11月4日（水）～2027年11月中（予定）

主催　　：一般社団法人日本橋リバーウォークエリアマネジメント
日本橋室町一丁目地区市街地再開発組合



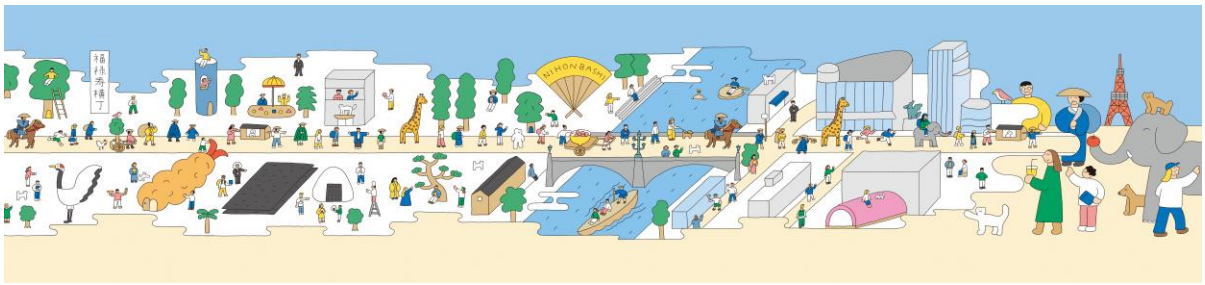
工事用の仮囲いを活用した装飾プロジェクト「NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM」の第六弾では、イラストレーター・米村知倫氏による《日本橋通り絵図》を掲出します。

本作が展開される日本橋室町一丁目地区周辺には、むろまち小路や、七福神の名を持つ横丁など、大小の路地や通りが広がっています。

今回米村氏は、中央通り沿いだけでなく、老舗をはじめとする個性豊かな店舗が立ち並ぶ日本橋室町一丁目・日本橋本町一丁目の賑わいエリアに着目。横丁に立ち並ぶ店舗や、あじさい通りの名物であるオカメザクラなどから着想を得て、複数の道の要素を一本の長い通りとして描くことで、生き生きとした地域の姿を一つの絵図として表現しています。

構想に当たり参照されたのは、江戸時代後期・文化2年（1805年）頃の日本橋通りを描いた絵巻『熙代勝覧（きだいしょうらん）』（絵師不明）です。人々の往来や商いの情景を長大なスケールで俯瞰的に捉えた同作からインスピレーションを得ながら、米村氏は現代のエリアの営みを画中に展開。水平方向に広がる仮囲いという媒体の特性を活かしながら、親しみのある軽妙なタッチで、現在と過去が入り混じる日本橋の活気を描きました。

一つの区画を囲むかたちで展開される作品は、実際の街並みや店舗とのつながりや、リズミカルでユーモラスな路上の風景を通して、歩行者を自然と路地の先へと誘います。絵を通じて目の前の風景の見え方が変わり、街を歩くことで作品の体験も深まっていく――工事期間中の日本橋だからこそ出会える、街と作品が響き合う風景を創出します。



『日本橋通り絵図』（一部抜粋）

【アーティストプロフィール】



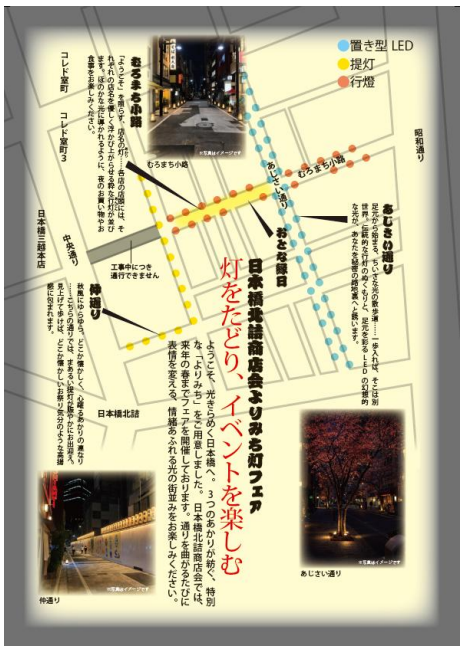
米村知倫　イラストレーター・デザイナー
1985年熊本県生まれ、大分県在住。熊本大学大学院建築学専攻修了後、坂口恭平氏に師事し、建築を軸に、芸術や生活にまつわる幅広い分野を学ぶ。空間や情報をわかりやすく伝えるイラストレーションを得意とする。「試してみること」をモットーに、デザインや家族とのものづくりに取り組んでいる。

「日本橋北詰商店会よりみち灯フェア」について

本作が掲出される室町エリアの地元商店会である日本橋北詰商店会は、まちの賑わいを創出するため、路地や街角に提灯や行燈を設置し、街の回遊を促進するイベントを実施しています。
本企画では、本作が掲出される仲通りと按針通りにも提灯が設置され、提灯の明かりが作品の一部を彩ります。提灯のあかりによって表情を変える、情緒溢れる夜の街並みをお楽しみください。

期間：2026年10月1日(木)~2027年3月31日(水)
場所：日本橋室町一丁目、日本橋本町一丁目など
主催：日本橋北詰商店会
後援：中央区







参考情報①　日本橋リバーウォークについて

現在５つの再開発事業（※2）が推進される日本橋川沿いエリアでは、再開発区域とその周辺一帯を「日本橋リバーウォーク」（※3）と称し、官民地域が連携して街づくりを進めております。今回仮囲い装飾が行われる日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業も、５つの再開発事業のうちのひとつです。

※2：「５つの再開発事業」とは、八重洲一丁目北地区第一種市街地再開発事業、日本橋一丁目１・２番地区第一種市街地再開発事業、日本橋一丁目中地区第一種市街地再開発事業、日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業、日本橋一丁目東地区第一種市街地再開発事業を指します。

※3：詳細は以下リンクをご参照ください。
公式ホームページ：https://www.nihonbashiriverwalk.jp/
プレスリリース：
https://www.nihonbashiriverwalk.jp/wp-content/uploads/release_20250611.pdf



5つの再開発エリア

参考情報②　日本橋リバーウォークエリアマネジメントについて

2025年4月、日本橋リバーウォークで一体感ある街づくりを進めるため、法人組織「一般社団法人日本橋リバーウォークエリアマネジメント」が発足しました。新たに誕生する様々な空間の利活用と情報発信を行うことで、エリア価値の向上を目指します。

NIHONBASHI RIVER WALK

今般実施する仮囲い装飾プロジェクトのほか、日本橋リバーウォーク公式ホームページの運用や、街づくりプレゼンテーション拠点「VISTA」との連携を通して、日本橋リバーウォークに関する情報発信等を行い、一帯の賑わいづくりに貢献してまいります。





■公式ホームページ：https://www.nihonbashiriverwalk.jp/
■一般社団法人日本橋リバーウォークエリアマネジメントを構成するメンバー(順不同)
日本橋一丁目中地区市街地再開発組合、八重洲一丁目北地区市街地再開発組合、日本橋室町一丁目地区市街地再開発組合、日本橋一丁目東地区市街地再開発組合、日本橋一丁目1・2番地区市街地再開発組合

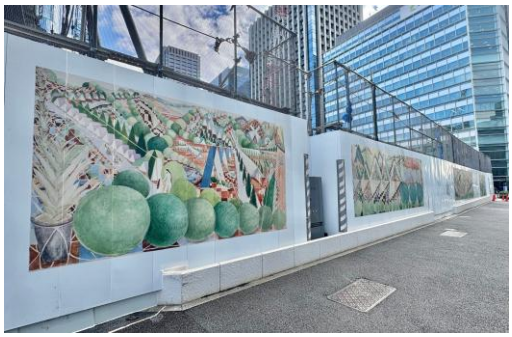
参考情報③　「NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM」他エリアの装飾について

2025年7月から始動した「NIHONBASHI RIVER WALK MUSEUM」は、第一弾を日本橋一丁目中地区(東京ミッドタウン日本橋)、第二弾を八重洲一丁目北地区市街地再開発事業、第三弾を日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業の仮囲いでアート作品を掲出いたしました。
第四弾を日本橋一丁目１・２番地区第一種市街地再開発事業、第五弾を八重洲一丁目北地区の仮囲いでアート作品を掲出中です。

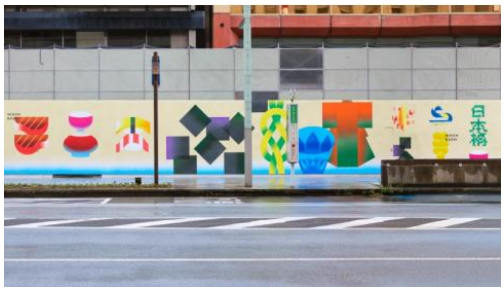




日本橋一丁目中地区(東京ミッドタウン日本橋)（2025年7月～2026年1月末）
ナカミツキ『Nihonbashi Symphonia ー響きあう多声的な都市像ー』2025



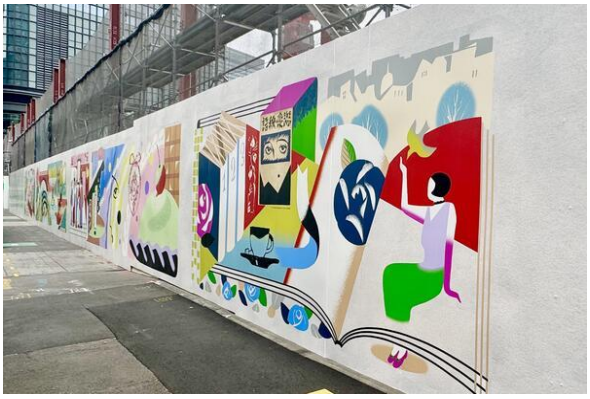

八重洲一丁目北地区市街地再開発事業（2025年10月～2026年3月）
東山詩織『４つの風景（万年青、橋、城門、家・門をくぐる）』 2025




日本橋室町一丁目地区第一種市街地再開発事業（2025年12月～2026年10月）
木住野彰悟『Bridging Tradition and the Future』 2025



日本橋一丁目１・２番地区第一種市街地再開発事業(2026年7月～2027年5月(予定))
大巻伸嗣『Echoes Infinity - QLAMMVON』2026



八重洲一丁目北地区（2026年10月～2027年9月中（予定））
いとう瞳『橋と夢二（呉服橋の記憶、進む時代、”かわいい”の文化、夢二と本）』

参考情報④　三井不動産グループのサステナビリティについて

三井不動産グループは、「共生・共存・共創により新たな価値を創出する、そのための挑戦を続ける」という「＆マーク」の理念に基づき、「社会的価値の創出」と「経済的価値の創出」を車の両輪ととらえ、社会的価値を創出することが経済的価値の創出につながり、その経済的価値によって更に大きな社会的価値の創出を実現したいと考えています。

2024年4月の新グループ経営理念策定時、「GROUP MATERIALITY(重点的に取り組む課題)」として、「１．産業競争力への貢献」、「２．環境との共生」、「３．健やか・活力」、「４．安全・安心」、「５．ダイバーシティ＆インクルージョン」、「６．コンプライアンス・ガバナンス」の６つを特定しました。これらのマテリアリティに本業を通じて取組み、サステナビリティに貢献していきます。

【参考】・「グループ長期経営方針」https://www.mitsuifudosan.co.jp/corporate/innovation2030/
・「グループマテリアリティ」https://www.mitsuifudosan.co.jp/esg_csr/approach/materiality